

令和4年度 日中サービス支援型グループホーム評価委員会について

1 対象事業所

ソーシャルインクルーホーム沼津西沢田館、沼津松長
ふわふわ沼津西沢田
RASIEL（ラシエル）沼津

2 令和4年度実施経過

- 8月22日 10月26日に評価委員会を実施する旨を事業所宛てに通知。実施に先立ち、9月16日までに報告・評価シートを提出するよう併せて依頼。
- 9月16日 各事業所から報告・評価シートの提出あり。
- 10月26日 事業所出席のもと、評価委員会を実施（サンウェルぬまづ3階会議室）
RASIEL 沼津 → 管理者出席
ソーシャルインクルー → エリアマネージャーと管理者各1名出席
ふわふわ → 関東支社長、サービス管理責任者各1名出席
- 11月18日 10月26日の実施記録と評価案を委員宛てに送付。
- 12月14日 委員の意見を取りまとめた最終の評価を作成。
- 12月13日 取りまとめた報告・評価シートを事業所宛てに送付。今後の対応、改善等の予定を翌1月25日までに提出するよう併せて依頼。
- 1月25日 各事業所から報告・評価シートの提出あり。

3 主な指摘事項

・管理者が短期間で代わってしまい、相談窓口が誰かわかりにくい。

3社に共通する事項として、管理者、世話人等が離職により短期間で代わるという事象があります。1社については、入居相談している中で管理者が退職し、社内で相談内容が共有されておらず、その後の入居相談がスムーズに進まなくなったという事象が発生しました。このため、利用者や市担当者、相談支援事業所が相談する窓口の明確化を求めたところです。

・社内研修の実施だけでなく、外部研修への参加すること。

管理者、世話人とも、求人に応募する方が障がい福祉サービス未経験という方も多い状況ですが、3社とも従業員への研修は管理者による実施が中心の体制です（管理者に対しては本社が実施）。平成30年度の制度改正で設けられた新しいサービス類型のため、ベテランの従業員が元々少ない中、離職によって交代が繰り返され、なかなか経験や支援スキルが積み重なっていかない状況になっています。経験の浅い管理者による座学研修のみでは、スキルアップが心許ないため、世話人も含めて外部研修に積極的に参加しやすい環境を作るよう勧奨しています。

・地域活動に参加することで地域からの協力を得られる関係性を構築すること。

グループホームは、障がいのある方が地域で生活していくための生活スキルを体験、訓練する場でもあるため、住宅地が介在する地域に立地することが要件になっています。いずれの事業所も定員 20 人を数人の従業員で支援しており、とくに夜間は 3、4 人の世話人が支援を行っている体制です。災害時には地域の協力なしで避難を行うことは不可能と考えられ、防災訓練その他地域行事に積極的に参加し、地域にグループホームの存在を知ってもらう取り組みを行うよう求めているところです。

4 来年度以降に向けての課題

本年 1 月にふわふわ沼津青野がオープンし、来年度は 3 社の計 5 事業所が評価対象になる予定です。年々対象事業所が増える中、現在の評価方法は評価委員、事業所双方にとって負担が大きくなりつつあります。また、昨年度と今年度、計 2 回の評価の実施によって、指摘事項も固定化してきたことから、評価シート 16 項目の取り扱いも再考が必要と考えています。

一方、グループホーム側からは、困難事例への対処の仕方など、他のグループホームとの情報共有や意見交換の場がほしいとの意見があります。

障がい者自立支援協議会としては、日中サービス支援型グループホームに対して一方的に意見や要望を伝えるだけでなく、地域の社会資源として助言やサポートを行っていく必要があります。

以上の課題を踏まえ、運営部会、評価委員会でサポートの枠組みや評価方法のあり方について検討を行っていくこととしました。